

ご存知ですか？ リボン運動



現在、いろいろなリボン運動が行われています。たくさんの方が、いろいろな意味で使われています。

こうしたリボンをアウェアネスリボン（気づきのリボン・認識のリボンの意味）と呼びます。社会運動に対する賛同や支援の意思を示すもので、一つの色のリボンに多くの意味合いを持たせる場合もあり、国によって多少の意味が異なることもあります。活動によって、形が変わることもあり、短いうりぼんを輪にして折り、ピンで留めるのが基本の形、訴える問題によってリボンの色が変わります。

ここでは、人権問題に関わりがあるものの一部を紹介いたします。

〈パープル・リボン〉

DVをはじめとする女性へのあらゆる暴力の根絶を目的に使用されています。その他、すい臓がんをはじめとして、多くの疾病の啓発と撲滅を訴えています。

〈レッド・リボン〉

エイズにより亡くなった方への追悼の気持ちと、現在苦しんでいる患者のための正しい理解と支援の気持ちを、そして、共に生き応援していく意思を表しています。薬物乱用防止などの意味でも使用されています。

〈オレンジ・リボン〉

子どもの虐待防止のための情報をわかちあうリボンです。2004年、幼い兄弟が虐待の末亡くなった事件をきっかけに取り組まれるようになりました。

〈ピンク・リボン〉

乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切

さを伝えるリボンとして知られています。

〈グリーン・リボン〉

移植医療普及のためのリボンとして使われるのが一般によく知られていますが、色の印象から各種環境保護団体をはじめ「狭山事件」の再審要求などたくさんの方の運動に使用されています。

〈イエロー・リボン〉

障がいがある人の自立と幸せを願う意味があります。また、自分を愛する人の幸せを願う意味もあります。山田洋次監督の映画「幸せの黄色いハンカチ」でも使われたのは「黄色」に由来するものです。

〈ブルー・リボン〉

「北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じて」という意思表示で使用されています。

市人権推進課 教育庁舎1階

TEL 32・2122

FAX 33・3525

Mail: jinkensushin@city.komatsushima.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇(304) 松並敦子・選

種蒔きの時期など記した日記帳年追うごとに遅れきみなる

田浦町 太田カツミ

《評》最近は十年日記、農業日記などもあり、昨年の今日は何をしていたかが分かる日記帳に人気があるようで、作者もそんな日記帳を使用しているのだろう。「種蒔きの時期が年毎に遅れきみ」に気付いたのも日記帳に記録していたからである。「遅れきみ」の語は地球環境の変化や、作者も年を重ねていくことを示唆しており、この作品のポイントとして巧みに表現されている。

療舎よりわずかニキロの海へゆく車椅子のわが冒険旅行

ひのみね総合療育センター 関 政明

老いるとは悲しきものぞき庭辺の小石は見事に吾を転ばす

横須町 三宅 敏恵

一品は母の味なりゆずの皮のせ秋を呼び込む炊き込みご飯

立江町 湯浅かや子

対岸の和田の岬の家明かり人恋しさに立つ夕暮れの浜

横須町 福島 夢栄

古里の味もたんまり持たせくれ実家と思ひ帰れと高知の友言う

江田町 深田 伴子

台風に残りたる柿の実は秋の陽射しに染まり色づく

赤石町 田原トシ子

何もかも予定通りと告げており火花一発早くも上がる

立江町 浜 耕一

カーテンを少し開ければ秋の月静かな夜を明るく照らす

横須町 柿本美知子

賑わいに抜かすにおいた猫じゃらし秋桜まもる構えてゆれる

横須町 山崎 泰子